
希望という名の一本毛幸子

猫舌ソーセージ

注意事項

このPDFファイルは小説サイト「小説家になろう」で掲載中の小説を、「PDF小説ネット」の変換システムが自動的にPDF化したものです。この小説の著作権は作者にあり、作者または「小説家になろう」および「PDF小説ネット」を運営するウメ研究所に無断でこのPDFファイルおよび小説を引用を超える範囲で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止します。小説の紹介や個人用途での印刷および個人用途での保存はご自由にどうぞ。

【小説名】

希望という名の一本毛幸子

【コード】

N8252B

【作者名】

猫舌ソーセージ

【あらすじ】

あるハゲた中学生の物語。そのハゲには、一本だけ髪の毛があった。その名は幸子。幸子を守る為にハゲは奮闘するが

ここに一人の中学生がいる。彼の名前は頭雅半家^{とつがはんげ}。平均的な身長に平均的な体重、平均的な学校の成績を持ち合わせたごくごく平均的な中学生だ。だが、彼には一つだけ平均的ではない部分があった。それは中学生ですでに頭がつるっばげという事だった。たった一本の髪の毛を残して……。

半家は……まあ、読者にとってキャラの名前というのは覚えにくいだろうから、此処ではハゲと呼ぼう。その方が皆さんもわかりやすいだろう。このハゲは、なんとみっともない事に残った唯一の一本毛に『幸子』という名前を付けていた。自分の髪の毛に名前、そんな奴を見た事があるだろうか。私はない。そんな奴がいたとしたら、友達になりたいだろうか？ 私はなりたくない。ハゲはこの一本毛幸子をととても大切にしていた。

まず、朝起きたら鏡で幸子が生存しているかを確認。ハゲにとって一番、心臓がバクバクと高鳴る瞬間だ。もし、朝起きて枕で幸子が死んでいたら、もしくは鏡を見ている筈の幸子がいなかったから、きつとハゲは自殺してしまうだろう。髪の毛ぐらいで馬鹿な、と思うだろうがハゲにとってはそれほど大切な存在なのだ。

無事に幸子の生存を確認したら、次は 朝シャンだ。

朝シャン：朝シャンプーする事。作者は中学生の頃に先生に朝シャンしてきている人はいますか？ と聞かれ実際はしていないのに（むしろ風呂に一日入らない事すらあったのに）格好つけて朝シャンしています。と答えたら他の生徒達は誰一人してないと答え、それ以来ナルシストなどと呼ばれるようになった。という恥ずかしい経歴を持つ。

ハゲは 頭皮を優しく揉むように洗う。出来れば幸子以外の友達も欲しい、そうハゲは思いながら洗っていく。この時もハゲの心拍数は上昇している。もし洗い終わって、頭を流した時に幸子まで一緒に流れていたら……これまたハゲは自殺してしまうだろう。

頭皮を優しく揉むように洗う：これは頭を洗う時に大事な事で、作者はそんなことなど知らず思い切り爪を立ててガリガリと頭を洗っていた。そのため頭皮の角質が剥がれ、尋常じゃないほどのフケを生産し、周囲からは『けじらみ』という不名誉なあだ名をもらうまでに至った。という悲しい経歴を持つ。

朝シャンも終わるとハゲはある一つの三角形のケースを取り出す。大きさは三角牛乳パックぐらいだろうか。若い子はお父さんにも三角牛乳パックの事を聞いてください。色は濃い黄色で中は見えな。ハゲはその三角形のケースの底面を外すと幸子を覆うように頭に乗せた。このハゲ馬鹿じゃね？ 意味わかんねーよ。と思った方がいるかもしれない。私も正直そう思う。だが、ハゲにとっては大切な事なのだ。幸子を守るという点で。ハゲはピラミッドパワーというものを信じていた。だからピラミッド型のケースを自作した。そしてそれを幸子に被せる。外敵から幸子を守るという意味も含めて。ハゲは頭のピラミッドをゴムの紐で固定する。パーティーなどで頭に付ける三角形のアレのような感じだ。ハゲは外に出る時はいつもこのピラミッドを装着している。そして今日も学校へ行く為に危険な外へと出かけた。

外に出ると当然の事ながら、通行人達がハゲを怪訝な表情で見る。私だって、頭にピラミッド型のケースを身に付けた人がいたら同じ表情をして見る。ハゲはそんな視線を感じていたが、いつもの事な。でももう慣れていた。それに幸子を守る為なんだ、恥ずかしくない。という思いから平気でいられた。幸子という言葉を使うとなんだか

カツコイイ台詞に見えなくもないが、実際は『髪の毛を守る為』なのでむしろ格好悪い。

ハゲが暫く歩くと、前方にいかにもという格好をした不良三人組がうんこ座りをしてハゲを睨んでいた。ハゲは目を合わせないようにして三人を素通りしようとした。

「おい、コラ！ 待てやその変なモン頭に乗っけてる奴」

やっぱり呼び止められてしまった。ハゲはおどおどしながら、足を止める。三人組の不良は、ハゲに近寄ると手の平を上に向けてハゲに差し出した。金よこせの合図だ。ハゲは震える手でポケットから財布を取り出した。すると不良達はその財布をひったくる。中を確認するとそこには五百円玉が一つあるだけだった。

「んだてめえ、しけてやがんなあおい！」

「っーか、おめえ頭に乗せてるの何？」

「ちよつと見せてみ？」

不良達の手がピラミッドへと伸びる。その時ハゲが叫んだ。

「これは駄目です！ ぼ、僕の大事な」

「うっせーんだよ！」

不良はハゲの言うことなどお構いなしに、そのピラミッドを取り上げた。

「……」

「……」

「……」

ピラミッドから出てきたモノを見て、三人の不良は沈黙した。風に揺られて幸子が踊っていた。泣きじゃくるハゲ。気まずい不良三人。不良はそつとピラミッドを元の形に戻すと、ハゲの肩を優しく叩いた。

「まあ、その……がんばれよ」

「色々と……悪かったな」

「お前はまだ若いんだ、だから大丈夫さ」

不良達はそれぞれがハゲへの慰めの言葉を送ると、去っていった。

こうして紆余曲折はあったものの、無事ハゲは学校へと到着しいつもの日常を過ごした。

それから数日後、ハゲは幸子との悲しい別れをする事になるのだが、それはまた別のお話。

完

(後書き)

万が一、続きが読みたいという変人がおりましたら、どうぞ続きが読みたいです。うへへへ。とでも書き込んで下さい！そして、私の連載中の作品『君が観る世界』もどうぞ宜しくお願いします！

広告募集中

小説関連広告に最適です。
出版社や印刷会社はもちろん、
個人の広告でもOK

縦：140mm 横：110mm

詳しくはPDF小説ネット広告募集をご覧ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネットは2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8252b/>

希望という名の一本毛幸子

2009年6月25日16時31分発行